



NO.458

R7年10月1日

-発行-

〒869-1217

熊本県菊池郡

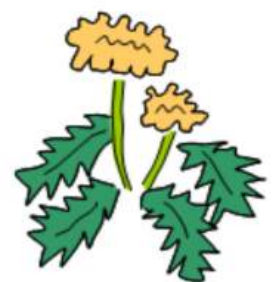
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



「僕らはみんな生きている」

理事長 松田 健

有名な「手のひらを太陽に」の歌詞に「ミミズだってオケラだってアメンボだって」「みんなみんな生きている。」「僕らはみんな生きている。」「あります。この歌が作者である「やなせたかし」さんの戦争体験から二度と同じことが起きないようにという平和の願いが込められていたとわかったのは朝のテレビ小説「あんぱん」を観ていたからです。



横手さんは、毎日毎日作業や運動を頑張り、ゆっくりご飯を食べて、嫌いな物は食べないとはっきり言われていました。おしゃれで、笑顔がとても素敵でした。女性利用者からの人気がありました。穏やかな性格でした。その存在はすべての人のこころをあたためていました。

「僕らはみんな生きている」その歌の通り、生きることの優劣はありません。声を出せなくとも、歩けなくとも、その人がそこにいるだけで意味があると思います。死を迎えるということ、は、終わりではないと思うようになります。自分の父や母、大切な人が旅立たれたことでそう思うようになりました。手渡されたものがあります。笑顔や言葉やしぐさ、沈黙の中のあたたかさ。それらは目に見えないのですが、確かに私たちの中に

残り、次の誰かへつながっていくような気がします。そうやって命は、静かに、確かに続いていくのだと思います。

訃報

九月二十一日未明 利用者

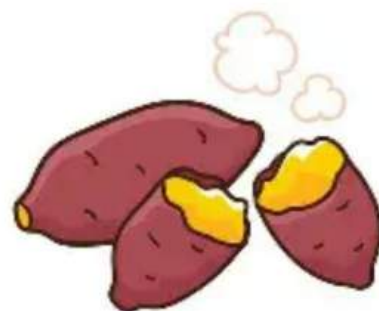
横手敏彦様が永眠されました。病氣により5カ月入院されました。享年六十九歳でした。心からご冥福をお祈りいたします。

（本稿を掲載するにあたりご家族からのご了承をいただいております。）





10月



「安心できる存在」

9月で入職して4年目に入りました。と同時に1班の利用者の方々と過ごすのも4年目になります。入職してまもなく担当させて頂くことになったAさん。そのAさんを担当して3年が経とうとしています。Aさんは言葉で意思表示をすることはできませんが、その時の感情を表情や態度から汲み取ることはできます。私が出勤して、挨拶をして顔を見せるとにっこりとほほ笑んでくれます。また、作業棟へ移動するときは、立ち止まり後ろにいる私をチラチラと見て確認し、追いつくまで待っててくださいます。私を待っていてくれるんだ、と思うと嬉しくなります。そういう姿を見ていると、私がいることで安心してもらえるような存在になれるようにもっともっと頑張らなければならないなと思いました。

1班 支援員 吉田 理江

「大改革」

2班では先月大きな改革を行いました。前年度まで2班の作業は、フルーツネットキャップとハンカチの2本柱で実施していましたが、今年度からはネットのみと作業を1本化し全員参加での体制となっています。これまでのネット作業は、作業工程を細分化し、多くの利用者さんはその中の1つの工程を専門に担い、別工程の利用者さん同士が流れ作業で繋がりながら上流工程から最終工程へと作業を進めていく方式でした。今回の改革では、一人の利用者さんが複数の工程を一人で担えるように配置の大転換を行いました。これまでとは異なる工程を担うことになった利用者さん達ですが、殆どの方が大きな混乱もなくスムーズに移行出来ておられます。少し作業の正確性に欠く方でも、治具をカスタマイズすることで精度、スピード共に向上することが出来ています。班所属での経験が比較的浅いスタッフが多い2班ですが『Aさんは折りも出来るんだ!』『Bさんは1人で作業すると、こんなに集中して取り組めるんだ』と嬉しい発見に溢れています。これからもそれぞれの方に合った作業方法や支援を模索し、改善していきたいです。

2班 支援員 渡邊 里奈



「まったり女子会」

今年度2回目のレクリエーションとなる今回は、昨年度好評だったこともあり、男女別で実施しました。女性は利用者さん4名のため、一人ひとりの希望を取り入れて、目的地を設定しました。押し花のボールペン作りは、講師の方に教えていただき、試行錯誤しながら自分の好きな花を選んで並べ、個性豊かなボールペンが完成しました。綺麗で可愛い作品に皆の気分も上がり、写真撮影も笑顔いっぱい、大盛り上がりでした。家族湯では、4人仲良く横並びで入浴され、とても和やかな時間に心が癒されました。

私自身、今年度から3班に所属し、レク計画を初めて担当させていただき、不安と緊張の中でのスタートでしたが、終始皆での会話が弾み、楽しそうにされている姿を見ると、不安が安心に変わり、私も楽しい時間を過ごすことができました。利用者さんにとっても、それぞれのリクエストが叶った、思い出いっぱいのレクリエーションになっていたら嬉しく思います。

3班 支援員 有馬 幸奈



「その人なりの思いに寄り添う」

三気の里に入職して四班の皆さんとの関わりが半年ほど経ちました。四班で毎日関わる中で一番強く感じることは「お互いを思いあっている」ことや「その人なりの参加をしている」ということです。毎週午後からの活動でカラオケを行います。歌った後に「次は～さん」と順番を伝えたり、その場にいない方に「～さんは？」と言われることから利用者さん同士のつながりがあると思います。参加の面では「スタート会、歌。」などどんな曲を歌いたいかを教えてもらえることもあります。他にもどなたかの歌を聞いて体を揺らしたり、手を合わせたり、笑顔になったり、画面をじっと見たりと歌わない方もそれぞれにしっかりと参加されていることを感じます。私が思う以上に様々な時間や場面で色んな発信をされているのではないかと思います。それを少しでも理解できるように日々関わっていきながら利用者さんの強みや弱みをスタッフと話し、共有しながらその人なりの思いを大事にして支援しようと思います。

4班 支援員 崎山 武志

「よかったね！」

私は方向音痴なのですが、Mさんと初めて口腔センターに行った時の話です。街中で車通りも多い中大丈夫かなとドキドキで車に乗り込みました。車内にあるナビとスマホのナビをつけて行きの車内、私のドキドキが伝わっていたのか、Mさんはバックミラーで見ても緊張している様子でした。「もうすぐ着きます」の声に、「え…あと二分なのにここはどこ？」と私は一人でパニックになっていました。周りを見回しても、後ろに車が並んでいると焦りだし、ひとまず道の端に車を止めて、深呼吸をして再び周りを見回しました。「あ。魚〇だ」近くにあったラーメン屋さんを見つけ私は思わず声を出していました（笑）。その後は、無事に口腔センターの駐車場に着いたのですが、私よりほっとした表情で微笑んでいたMさん。二人で車を降りた際「よかったね」と言葉を掛けてくれました。その言葉にすごく心が温かくなり「ありがとう」と返した時のMさんの穏やかな笑顔が今でも忘れられません。

5班 支援員 玉永 咲希

療育雑記

「しあわせな時間」

主任 高橋 一精

巻頭言にも掲載されていますが、男性利用者最年長だった横手敏彦さんが、令和7年9月21日に永眠されました。

横手さんは、頑固で融通の利かない昔で言う「九州男児」的な一面がありました。その頑なさには必ず本人なりの理由がありました。楽しい時は周囲の誰をも和ませてくれる満面の「笑顔」の持ち主で、皆から愛される存在でした。

今年の2月に左眼の違和感に気づき、すぐかかりつけの眼科を受診しました。先生が脳の病気を危惧され、大津町の中核的な病院など計4回の紹介状を経て、3月上旬に県内では先端治療を受けられる中核的な病院へとたどり着きました。4月には入院生活が始まり、治療方針が色々な角度から検討されました。そこに至るまでに担当医から「悪性で間違いない」との所見は受けていました。それだけでもショックは大きかったのですが、今後の治療方針を各専門医、親族、ご本人も交え検討してい

く中で、特性や体力、治療のリスクなどから、「できるだけ苦しまずに最期を迎える」という結論に至り、余命も宣告された際には何かスドーンと心に大きなものをぶつけられたような気持ちだったことを思い出します。（もちろん一番辛いのは横手さん自身だったことは言うまでもありません。）

5月に入ってから、緩和ケア病棟がある病院に転院はありましたが、毎日、スタッフが摂取できる物（機能的に）と好物とを擦り合わせながら差入れを持って行きました。体調や気分などによりムラはありましたがカップ麺やたこ焼き、焼き鳥などが好んで食べられていました。そんな生活が5ヶ月ほど続き、徐々に腫瘍の増大や食欲不振、身体機能も低下していき、前述した最期の日を迎えられました。

そんな闘病生活の中で、横手さんはいろんなことを私たちに教えてくれました。その中でも特に「時間」という考え方を教えてくれたような気がします。

突然ですが、「86400」という数があります。この数字は1日を「秒」に換算した数です。つまり1日は「86400秒」で、全ての人

に平等に与えられています。少し想像して下さい。もしこれが「秒」ではなく、1日に86400「円」が貰えるとしたらどうでしょう。私だったら、「勿体ない」という感情が沸き上がり、寝る間も惜しんで使い切ると思います。次の日に持ち越せないとなればなおさらです。それが、「円」ではなく「秒」ではそんなことを思ったことすらありませんでした。横手さんのことを想うと、1日、1時間、1分、1秒をどれだけ無駄に過ごしてきたか、と考えさせられました。

ある本の一節に載っていたことですが、「どんな時が一番幸せですか。」という質問がよくあります。その答えとして、「家族や友人・仲間などと楽しく過ごしている時。」と答える方が最も多いそうです。私も親しい友人たちと酒を酌み交わしながらバカ話している時間が一番楽しい時間です。しかし、そこには、「だれかに命を繋いだ時が一番幸せな時間である。」というフレーズが載っていました。まさに私たちは横手さんから命を繋がれました。そう考えると、横手さんは、「俺が幸せでいられるかどうかは、あなたたち次第なんだよ。」（横手さんが幸せでいら

れるかは私たち次第。）と教えてくれているような気がします。

約7ヶ月という闘病生活を終えられた横手さん、たくさんの方を教えてくれました。本当にありがとうございました。今現在も三気の里を見守ってくれていると思います。その時間が横手さんにとって「しあわせな時間」だと思ってもらえるように頑張ります。

最後に、訃報を知ったたくさんの方から、手紙や折り紙で作った花束、好きだった食べ物のイラストなどを預かり、葬儀に届けさせていただきました。ある利用者は、折り紙でお寿司を作ってくれました。今もスタッフ室に花束と一緒に子供えしてあります。病室でいつも「会いたい」と言っていたお母様とネクストステージで再会し、大好きだったお寿司と一緒に食べていることでしょう。



アンパ

「ゆっくりゆっくりと」

支援員 黒澤加代子

アンパの活動がリニューアルし半年が経ちました。利用者主体の活動となったことで、一人一人のニーズに合わせた活動を保護者の方にも見守っていただきながら実施できるようにになりました。会話や時間を共有する中で、見えてきた課題に対して、発達障害者支援センターや基幹相談事業所とも連携して取り組めるようになり、アドバイスをもらえることで、これまで利用者を支えてこられた保護者の方のほっとした笑顔も見ることができるようになりました。

創作活動では、利用者の方達のおやつ作りに毎月地域の方も参加してください、「来月は何にしようか？」とメニューも一緒に考えていただけるようになりました。

目標に掲げた『地域の拠点となる活動』が周りの方に支えていただき、少しずつ形になっていくところです。これからゆっくり、じっくりと進めていけたらと思っています。



10月スケジュール

02(木)03(金)、07(火) 大津町健診
04(土) 三気の里家族・職員懇親会
05(日) 施設親善スポーツ大会
08(水) GH避難訓練
11(土) 三気の里運動会
15(水) 2班レクリエーション
16(木) 嘱託医来診・避難訓練
アンパ創作活動
17(金) リハの日
19(日) おおづ福祉祭り

24(金) ゴールドクラブ
25(土) 地域ミニバレー大会
28(火) 4班レクリエーション
5班レクリエーション

毎週月曜日 訪問理容サービス

毎週水曜日 BeTREE役場販売
BeTREE

＜営業時間＞9:30～17:30



betreeJ14

人材確保

支援員 小林奈央

人材確保委員会では、今年度、学生向けの就職説明会に5月、6月、9月の3回参加しました。私自身、学生の頃に就職説明会で三気の里の説明を聞いたことがあり、緊張しながら先輩方とお話したことを覚えています。今回初めて説明する側になってみて、その難しさを感じました。説明を聞きに来られた学生が何年生なのか、福祉施設を希望しているのか、内定がある方なのかなど、学生の状況で説明の内容も変える必要性があり、また説明会で終わりではなく、実際に三気の里まで来てもらって見学に繋がられるように学生に興味を持ってもらう工夫も必要だと感じました。100以上の企業が集まって開催される説明会もある中、他の企業の説明の様子や雰囲気参考にし、今後は数多くの企業ブースの中でも目を引くような三気の里の看板、

三気の里の雰囲気をより感じてもらえるよう写真パネルの作成を頑張りたいと思います。



沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

【寄付】

有馬 幸雄様

【寄付物品】

魚谷 秀文様

櫻木 勇夫様

松村 俊介様

渡邊 正司様

清田 栄一様

中村 秀隆様

米田 孝一様

田中 満子様

編集後記

【後援会ありがとうございます】

坂口 正浩様 中原 喜徳様
田中 基幹様 菊池 フジ子様

米村 秋江様 坂梨 清美様
柴田 博子様 渡邊 京子様
赤星 央子様 井手 上昌子様
金森 保様 東坂 富士代様
井上 優様 井上 ちえ子様
泉 美鈴様 上田 タキ子様

朝晩は涼しくなり、ようやく秋の聲が聞こえてきた感じがします。しかし、日中はまだまだ暑い日が続きます。秋は楽しみがたくさんあります。よね。スポーツの秋、食欲の秋、読書の秋、等、皆さんはどんな秋を楽しめますか？

吉田 理江

